

本物の専門家とは

教員生活のほぼ中盤にさしかかった四十代前半に、大きな影響を受けた先生に出会いました。先生には附属特別支援学校の校長として六年間にわたり、教師としての在るべき姿や必要な力とは何かについて、たくさん指導をいただきました。「目から鱗が落ちる」という言葉がありますが、当時の私にはその言葉がびったりという思いでした。中でも私が特に印象に残ったことを挙げてみます。

それは、「このままではあなたは本物の専門家にはなれない。」と指摘されたことです。実践研究を大きな使命とし日々研修に精力的に取り組んでいる者にとっては衝撃的なことでした。その意味を先生は「専門的な知識・技術は勿論大切ですが、人としての資質・力量が土台・背景になれば専門的な知識・技術は生かされないし、生きてこない。」と言われました。つまり、教師としての専門的力量と人間的資質・力量が相まって初めて、本物の専門家になれるのだということです。

次に先生は人間的資質・力量について、次の三点を強調されました。

一点目は、教員や子供への情熱、愛情、使命感、思いやり、優しさをもつということ。特に障害を同情や憐れみで見ないということ。

二点目は、子供の人格・人権を尊重するということ。名前は絶対に呼び捨てにせず年齢にふさわしい呼び方や関わりをすること。また、指導という名の下で非人間的な指導をしないということ。

三点目は、確かな倫理観をもつということ。特別支援学校の教員は普通学校の教員以上に大切である。

先生の真意や意図については、校内の様々な機会を通して理解に努めてきました。私も年齢を重ね、様々な立場、役職を担うことになりましたが、現職の先生方や将来教師を目指す皆さんに対し、人間的な資質・力量の大切さを説いてきました。

それにしても、当時の校長先生と出会い、素晴らしい人間愛に満ちた教育理念に直接触れることができたことは、本当に幸せであったと今も感謝しています。